

## 名残り夏

もう鳥の歌声は聞こえない  
二ヶ月前までは意気揚々としていた白樺は  
今はげんなりとして私を無視している  
お知らせを携えた使者の白い翼が  
薄い聡明さを持ちながら  
広がりを増した空に重なっている  
疲れている暇はない  
本当の9月になる前にチャンスは訪れる  
真夏に増幅した茂みが川の流れを阻み  
揺らぎが消えた  
風の匂いも断ち切れた  
けれど白樺に影響されないようにと  
痛めた左手を水色の空間にかざしてから  
イヤホンを耳につける  
川音の代わりにピアノが揺らぎを誘う  
疲れている暇はない  
そんな、名残り夏